

# がんばった運動会！

## 1年

大前 敬子

入学して約2カ月。運動会では練習の成果を発揮し、素晴らしい頑張りを見せてくれました。

「はじめのいっぽ」では、色とりどりの浴衣・甚平に身を包み、笑顔いっぱい元気いっぱい、可愛らしく歌いながら踊ることができました。ご家庭で練習していただいて、浴衣・甚平も自分で着られるようになりました。

団体競技の「大北★チェッコリ玉入れ」では、リズムカルに楽しいダンスを披露しました。応援していた他学年の児童も一緒に踊ってくれて、盛り上がりました。練習では20個しか入らなかった玉が、本番では50個も入ってびっくりしました。

保護者の皆様には、衣装の準備や着替えのお手伝いなど、たくさんご協力いただき、感謝しています。ありがとうございました。



## 2年

生方 佳世

子供たちがたくさん練習を重ねてきたダンス『あいうえおんがく♪』…前奏で五十音が覚えられるという珍しい曲ですが、アップテンポなノリの良さが気に入って、練習を離れても、曲が流れた途端に体が反射的に動いてしまい、踊り出す子供たちでした。

運動会当日は、練習の成果を存分に出して、どの子供も笑顔！笑顔！で精一杯楽しんで踊っていたのが嬉しかったです。しかも、小さな体を大きく伸びやかに動かし（ポンポンを持った効果もあります）、アクセントをつける、弾む等、動きのコツを見事に身に付けたキレのあるダンスには感心しました。

意欲的で吸収力のある子供たち。行事で成長していく姿が見られることに感謝しつつ、次への期待感も大きくなっています。

温かいご声援ありがとうございました。



## 3年

京田 華子

「みんなで5, 6, 7, 8!」では、アップテンポの曲に合わせてリズムカルに踊りました。難しいステップを習い、体育館で初めて曲に合わせて踊ってみたときには、あまりの速さに「うっひゃー!」とその場に倒れ込んだり、「こりゃ無理だ。」と言わんばかりに首を振っていたり、なんだかおかしくて笑いがとまらなかったりしていた子供たち。でもそこで諦めずに、食らいついてくるところが3年生のいいところ。その日を境に子供たちの目つきが変わり、毎回真剣にステップを覚え、息を切らしながらも繰り返し練習を重ねてきました。中休みも昼休みも「音楽に合わせて踊りたい!」とリクエストして、毎日のように踊り込んだ1ヶ月でした。

オープニングでは曲に合わせて馬跳びをするという難しいプログラムでしたが、練習の甲斐あって137人全員が跳べるようになりました。自分たちの努力の成果を一人の欠席者もなく全員で披露できたことが自信につながったようです。やる気いっぱいの3年生に、温かいご声援をありがとうございました。



## 4年

伊藤 聖矢

4年生は、「やってみよう」をテーマに、フラッグダンスに挑戦しました。なじみのある曲を使用したことで、スローテンポからアップテンポへとつなげながら、「楽しく」「揃えて踊る」ことができました。振り付けの一つ一つは難しいものではないけれど、みんなで息を合わせて一つ一つの動きを集中して踊り、「バサッ！バサッ！」と旗の音が揃った時には、歓声上がるような迫力と美しさがありました。動き出すタイミングを覚えることや、立ち位置を前後左右で合わせるなど、大変なこともありましたが、本番では笑顔と元気いっぱい、生き生きと子供たちは踊っていました。

この元気の良さを今後の生活にも引き続き生かしていきたいと思います。



## 5年

岡田 博之

5年生は、「元気」「力強さ」「キレ」「心」をテーマに大北ソーランに挑戦しました。「ドッコイショ」のかけ声と「構え！」の姿勢に始まり、「波」「網上げ」「綱引き」「櫓こぎ」等、北海道のニシン漁をイメージした動きを練習しました。腰を落とし重心を低くする姿勢は、普段あまり使っていない筋肉を使うため、足腰がかなりぎつかったと思います。さらに、素早い動きの後にピタッとストップモーションすることでキレを出そうとがんばりましたが、全員の動きを合わせるのはなかなか難しいことでした。しかし、「元気があれば何でもできる」と5年生全員の声と気持ちを合わせた演技は、如何だったでしょうか。今後も高学年として一歩ずつ成長していけるよう、担任一同指導を続けていきたいと思います。



## 6年

高橋 諒

今年度は、高さや技の難易度ではなく動きで見せていく新しい方向性での組体操となりました。また、子供たち自身が曲のカウントを取りながら演技をするために笛の合図は使いませんでした。練習の中盤では何か合図が必要かと思うこともありましたが、子供たちの力とやる気で最後まで合図をせずに子供たちだけで技や動きを組み立てていくことができました。

「支え合い～116人の挑戦～」というテーマのもと、本番では116名全員が音楽に合わせて、隊形や動きを揃えながら、最後の運動会にふさわしい緊張感のもと、演技をすることができました。一人一人がそれぞれの役割を意識して仲間を支えるという気持ちを持ちながら、演技をやり遂げたことで達成感や最高学年としての誇りを感じることができたように思えます。子供だけでなく、本番の姿は担任一同もとても頼もしさを感じました。

また、6年生として前日準備や係の仕事、片付け等の仕事に携わったことで、運動会が保護者の方や地域の方、そして大北小の伝統に支えられ成り立っているということから自分たちも様々な方々に支えられているということにも気付くことができたのではないのでしょうか。

練習での辛さを乗り越えたからこそ得られた喜びや一体感を自信にして、卒業に向かって6年生全員が新たな一歩を踏み出しています。温かいご声援本当にありがとうございました。

